

函館高専 令和4年度データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価

本プログラムの講義内容（認定制度の審査項目）	モデルカリキュラム対応箇所	内部評価	評価理由
データサイエンス・AI は現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついているものであること	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI 利活用の最新動向	A	社会を取り巻き、進展を続ける情報技術について理解するとともに、AI 利活用の最新動向に関する講義が実施されている（情報処理基礎、工学リテラシー）
データサイエンス・AI で扱われる「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AI の活用領域	A	情報社会におけるデータを利活用するためのさまざまな技術及びアルゴリズムの基礎や課題解決の方法を理解する講義が実施されている（情報処理基礎、工学リテラシー、工学基礎実験、プログラミング入門）
様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること	導入 1-4. データ・AI 利活用のための技術 1-5. データ・AI 利活用の現場	A	データ利活用の実例（ネットワーク技術等）が示され、データ利活用の技術の例として表計算ソフトを用いたデータの収集や整理、解析が実施されている（情報処理基礎、工学基礎実験）
データサイエンス・AI を活用するに当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI 社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること	心得 3-1. データ・AI 利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項	A	情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響、法規、著作物の扱い、情報セキュリティに対する脅威への対応について講義が実施されている（情報処理基礎）
実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AI の基本的な活用法に関すること	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う	A	実データを用いた Excel 演習の他、C 言語を用いたプログラミングにおいてデータの取り扱いを理解する講義が実施されている（情報処理基礎、工学基礎実験、プログラミング入門）

評価基準

- A：十分満足している
- B：満足している
- C：改善を要する